



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『憩いの森をつくる』

通年コース第七・八回開催報告「間伐」

伊那市ますみヶ丘の平地林は戦後、食料生産のために国が買い上げ、全伐されて畑となっていました。その後一九六〇年にもとの所有者に再配分され、人工のヒノキ林に

なったり天然のアカマツ林になったりしていましたが、大方は手入れが滞り、込み入った暗い林がほとんどでした。



衆目の中、ちょっと緊張。かかり木を作ってしまった



終了間際に大物に挑戦。大成功

市民のための憩いの森として活用したいという機運の盛り上がりから、六年前、市が音頭をとり、自己管理のできる山主以外は売却、または管理委託をしてもらい、手入れを進めてきた経緯があります。

今回お借りしたところは三筆、計六反部でほとんどは市が買収したところで、天然のアカマツ、サワラ林にわずかにコナラ、コシアブラ、アオハダなどの広葉樹が混じっています。

『憩いの森』に近づけていくか、相当に難問ですが、手入れ期限の一年後には誰でも気軽に足を踏み入れられるような明るいい林にしたいものです。



間伐前はこんなに込んでいた



少しづつ明るくなってきた

たえ、逆に涼しい分、随分と間伐が進みました。プロット内がぼっかり明るくなり、『憩いの森』に一步前進、お疲れさまでした。

通年コース第七・八回 7月18、19日(金土)

間伐

一日目

今年の梅雨はまじめな梅で、ずつとそれらしい空が続いていきます。天気心が心配でしたが、暑氣払いのときに少し降られたものの、昼間はなんと持ちこた

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ、日程説明、班分け

9時 現場に移動して、班ごとに20メートル四方のプロット調査。4班ともにアカマツ、サワラ合わせて60本以上、中には76本の班も。上層樹高もほぼ20メートルを超えている

11時 小屋に戻りデータ整理。林分形状比や相対幹距比を出して込み具合の数値化

12時 昼食

12時45分 島崎先生による保残木マーク法の説明。現在45年生なので、15年後に残っている本数を割り出す

1時30分 現場に戻り保残木にマーク、伐倒開始。途中休憩をはさみ

4時 作業終了、とりあえず解散

6時 用事があつて帰らなくてはならなかった方もいましたが20名近くで暑氣払いが始まる。幹事は長谷川、斉藤の二年生コンビと長坂、風見の三年生ペア。斉藤さんの見つけてきたでかマトン好評でした。途中ばらばらと来たがあまり気にせずに巨大コンロを囲む。

二代目宴会部長藤本さんや園田さんの果実酒はじ

めたくさんのアルコールの差し入れありがとございました。保科先生、巨大たまねぎご馳走様。夕方から出版記念パーティーに出かけた島崎先生も合流し、得意の木曽節もでる

二日目

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ

9時 体操をして、今日も一日がんばるぞ。

椎原班や坂野班で伐倒した上層木の高さを測ってみるとブルーメライスやワイゼで測った値より2〜3メートル下回る。どうやら樹高を過大評価していたようだ。保残木の



二つ目の受け口を現在使用中です

テープを急遽数本追加で巻く

12時 昼食。朝、雲行きが怪しかったので、お弁当は小屋に置いてきた。戻って食べる。天気は何とか持ちそう、時に日が差す

1時 再び伐倒開始。いたるところでかかり木が発生するがこれらの処理も少しづつ上手になってきた。保科先生ご愛用の元玉を

4時 終了。小屋に戻って、チェンソー製材(ロゴソール)実演。30センチくらいの丸太が次々と薄板になっていく。大型のチェンソーなので音が



やらせるのは得意だが、自分でやるのは苦手

すごい。フェイスガードとイアーマフ(または耳栓)は欠かせない。斉藤さんが試しに挑戦。無難にこなす。先生方の講評。解散

参加者/相内さん、大河内さん、岡崎さん、小栗さん、椎名さん、園田さん、滝口さん、武田さん、永井さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、斉藤さん、成田さん、長谷川さん、風見さん、長坂さん

講師/保科先生、島崎先生、スタッフ/石原、川島、後藤、椎原、坂野、早川



住宅街ではとてもできません

次回以降の予定

集中コース夏の部 7月31日(木) ~ 8月2日(土)

KOA森林塾のエキスを集めた三日間です。樹木分類から測樹、伐倒、そして伐出まで一通りの事をやってみましょう。あれやこれや盛りだくさんですが、何かひとつでもお持ち帰りいただければ幸いです。初日が保科先生、島崎先生の担当です。なお2日(土)は伊那まつり、通りが歩行者天国になり踊りがあります。御用とお急ぎでない方は見ていってください。

第九・十回

8月22・23日(金土) 伐出

間伐の現場

で、倒した木を林道端まで出してきました。携帯式のウィンチャ林内作業車で集めます。交代で間伐の続きもやってみましょう。8時30分に島崎先生の山小屋。一日目が島崎先生、二日目が保科先生の担当です。なお、23日



ちょっと肩に力がいっている

(土)には鳩吹公園で「まほら伊那地球元気村」が始まります。相当の混雑が予想されますので駐車場などに注意ください。



この平地林は60ヘクタール余が600筆以上に分かれている



チェーンソー目立ての説明。ゆっくりおおきく



「も爺」を囲んで宴会のひとつ

担当は保科先生です。

第十一回
9月19日(金) 見学

倒された木はどこへ運ばれ
どうなってゆくのか。
材木市場などを見学する予
定です。詳細は追ってご連絡
します。

第十二回
9月20日(土) 枝打ち

いよいよお待ちかね、枝打
ちです。ぶり縄の作成から木
登り、そして枝打ちです。子
供の頃に帰ってまず木に登る
練習。高さに慣れたら枝打ち
です。何のための枝打ちか、
という目的を見失つと時期や
方法を間違えてしまいます。
そのあたりをしっかり聞いて
ください。

リレー通信



意を決して
椎名 辰夫

飯田市から十期生として参
加しています椎名です。山と
の関わりは若い時から登山を
通じて関わってきました。と
りわけ南アルプスは北の甲斐
駒(南アルプスでないかも)
から南の聖岳まで二三年か



けて全てを登ってきました。
今から三十年前の姿は里か
ら登山道へ通じる両側の山は
広葉樹、針葉樹とも人の手が
入り大径木がニョキ、山
郷がすっきりした様子で、今
の込み入った山で藤ずるに巻
かれた木など余程の山奥でな
いかぎり見られませんが、し
た。当然猪、熊、鹿は山で暮
らし、人は里で田畑を耕して
暮らし、自然のパランスが取
れた住み分けができており、
有害鳥獣などと言われること
は極稀なことでした。

当時私は工業高校を出て、
今では過去となった高度成長
の時代におりました。当時の
工業地帯からは煙がモク、

廃液は垂れ流しの公害二ツボ
ンから、なんとかしなくては
と環境を大事に人間を大切に
との叫びが始まり、工業政策
も重工業からエレクトロニク
スへの移り変わりの中で、私
のいた会社も電気、精密を戦
前より手がけていた事もあり
大繁忙となり、山登りも出来
なくなり自然との関わりも少
なくなりました。それから三
十二年間、モーターやセン
サーの製造ライン責任者とし
て勤めて来ましたが、昨年会
社を退社してこの森林の業界
に飛び込みました。

そのきっかけは十年前前会
社のリフレッシュ休暇を利用
して久々に山へ出掛けました。
それは飯田市の奥山で(すり
こぎ山、松川の支流から沢登
目指すルートでした、四十
代の体力を試したく、又会社
でのストレスを吹き飛ばした
くもあり意気込んでまいりま
したが、途中で中止。それは人
が進めない沢になっていたか
きました。

その夜懇親会がありその時
感想と私の自然に対する考え
と最後に山仕事こそ最後に残
された男の仕事ではないかと
島崎先生に申し上げると、先
生は椎名さんの自然に対する
考えはわかりましたが、男だ
けが山仕事をするのかと言っ
とそれはちょっと違います
よ、現に森林塾から女性が立
派にひとり立ちして山仕事を
こなしており、椎名さんの
へつり腰よりよほどましで
すよと言われました。その方
は森林塾の先輩で石原さんと
言うことが後からわかり考え
を改めました。



丁度そんな時
泰阜村できこり
学校がある旨新
聞記事があり、
さっそく申し込
みして二泊三日
で参加をしまし
た。そこで島崎
先生に始めてお
目にかかりまし
た。
初日はチエー

この森林業界に飛び込んだ
理由のもう一つは、二人の娘

も仕事に付き、もう手のかからなくなつた今、残された定年までの十年を思うと、これから自分は何か残せるのか自分に問いかけ、今決断しないときつと後から後悔すると思ひ、意を決して会社に退職届を出しました。退職最後の日に社長にお礼の挨拶に伺ひ、私の森林への思いを述べたところISO14000の飯田地区の幹事会社でもあり、環境とりわけ森林の業界に行くとは良いことだとの応援の言葉があり、円満の退社をすることができました。

その後は今年の一月〜三月まで下条村の区有林で調整間伐を経験し六月は刈り払い機を担いで浪合村の森林組合で除伐の経験をしましたがこれが山仕事かと思つて体験でした、刈り払い機で五〜十センチの灌木をざくざく切り倒す様はあつけに取られるばかりで付いて行くのがやつとでした。今は何でも経験を積みなきてはと思ひ草刈、竹林の伐採と取り組んではいますが経験不足は否めず早く一人前になりたく又色んな人たちと触れ合うことを期待してこのKOA森林塾でお世話になつていくところです。



こんにちは。森林塾通年コース一年目の園田です。念願叶ひ、ようやく入塾出来た私は、毎月心待ちにしながら、伊那を訪れています。植物に興味を持つようになってから数十年、植物図鑑や、専門書で花や樹の名前を調べたりすると、この植物は、こんなに綺麗な花が咲いているけど、いったいどんな香りがするんだろっ？と考えると楽しみも増し、実際にその植物に出会った時はドキドキとき



めいてしまいます。私は、あるときの数年間を、周囲を山に囲まれた所に住んでいました。目と鼻の先に森があり、時間を見つけては森へ散歩に行つていました。穏かに晴れた秋の日、少し足を延ばし、いつもとは違う森に入つていくと、少し開けた所に紅葉した一本の樹がありました。高さ五、六メートルくらいあり、四方にのびた枝いっぱい、ちいさな赤い実をつけ、葉の一枚一枚が言葉では表現できない程、繊細で美しく紅葉したその樹は、にしぎの仲間のまゆみと言う樹でした。ほとんど人の入ることのない森の奥で秋の陽射しをいっぱい受け、紅葉した葉と赤い実が風にゆれるその光景は、圧倒的な美しさで凜とそこにあり、呆然と見入つてしまつほどでした。



当時の私はある問題を抱えて思い悩んでいる時期でもあり、そんな時にこの樹に出会い、ただ、黙つてそこに静かに立ち何十年も生きているその樹は、私の悩みの理由など、なんでもない、ただ現実から逃れようとしていただけ、あるがままを受け入れるのは、たやすいことではないけれど、そこから先には進めないよ。と言っている様におもえました。言葉をもつことのない植物が、受け止める側の気持ちを見抜いているようにも思えます。時には、人の心を和ませ、楽しませ、ある時は叱咤激励してくる植物。私にとつて、このとき出会つたまゆみの樹は忘れることのない、心の支えのような樹です。幸い、そのまゆみの樹は伐採される事のない場所にあり、きつと天寿をまっとうできるはずです。あの日以来、この樹は見ていませんが、できればいつかまた会いに行きたいと思つています。世界中のあちこちで森林が伐採され、虚無の心で環境破壊が進む今日、一本でも多く、いつか誰

よつに20cm程度の長さに切り、それに研いでいないお米と適量の水を入れアルミホイルで蓋をします。なるべく半分以上は熱源に接するように焚き火あるいは炭火の中へ。おいしそうな匂いがしてきたら、たぶん炊けています。半分に割るなり、ほじくるなりして取り出したごはんは、ほんのり竹の香りがして、なんともい

か心のより所となる樹や花があるがままに、生き残つてくれればと思います。

コラム

いよいよ夏本番、夏にしたい事つてたくさんありますよね。その一つに、「河原でバーベキュー」というのはありませんか？真夏の暑い日差しの中で、汗をダラダラかきながら冷えたビールを飲む。おまけに、ただでさえ暑いのに炭火をおこして肉や野菜を焼く。何がおもしろいんだか・・・といった感じですが、これも夏の醍醐味ですよ。みなさんも、相当のバーベキュー技をお持ちだと思いますが、私の必殺技を一つご紹介致します。竹で炊くごはんです。竹はモウソウチクでもマダケでもいいと思いますが、青竹を一本用意します。節のところが底になるように20cm程度の長さ

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp



あわりこ

東海地方以西は梅雨明けしたそうですが、関東甲信地方はまだらしい。ここ伊那界隈はなんとなくそんな気配はあるもののいまひとつはつきりしない天気です。そろそろ力ンカン照りにならないとただでさえ短い夏が終わってしまうではありませんか。

そこで、天気に関係なく夏祭り真つ只中です。先週末は箕輪町や飯島町、駒ヶ根市などでお祭りでしたが、今度の週末、集中コースが終つた2日、3日は伊那まつりです。初日は夕方から駅前での市民踊りを中心として各種イベント、二日は花火の打ち上げがあります。市民踊りは飛び入りもできますし、また花火大会は天竜川、三峰川合流点であげられ、規模は県下屈指(伊那まつりHP)だそうですのでぜひ一度ご覧下さい。

えない旨みがあります。是非お試しを。